

2019年度 事業計画

平成30年度事業の反省

- 日々改革による前例に捉われない自由な発想
 - ・大小に関わらず自主的に事業所単位での改善がみられてきた
 - ・職務分掌の周知により縦串、横串共、浸透しつつあるため、更なるボトムアップ環境を整備する
- 増収施策の実施
 - ・研修、経験による基本的支援力は向上しているが、変化を察知し、対応するところが欠けている
 - ・イレギュラーサービスも多く、請求サービスの整頓は完成に至っていない
 - ・施設外就労の拡充は他法人との連携を実施し、自主商品開発は必要に応じ実施に留まる
- 職員の安心と安定
 - ・スキルアップのための研修等、支援は実施し、次年度以降の継続が重要
 - ・現場職員における異業種交流は施設外就労を通じての場面設定が多い
 - ・職員が実感できる福利厚生事業の向上はなかった
 - ・高卒求人、大学訪問等を実施するが大きな成果は得られず。継続が重要
- 将来を見据えた支援の実施
 - ・前例を継承した支援計画が多く散見される
 - ・事業所での様子を保護者の方にとって頂く機会が提供できなかった
- 新規事業(就労に向けた学びの場作り)に向けた準備
 - ・進捗状況として4週間程度の遅れがみられる

平成30年度経営の課題

- ◆外部環境の変化
 - ・就労系報酬改定において成果主義の導入
 - ・就労系報酬改定における単価は実質上マイナス査定
 - ・働き方改革への対応
 - ・共生型社会(制度)への対応
 - ・困難を極める人材(職員)確保
 - ・高まる防災対策意識
- ◆内部環境の変化
 - ・事務部門における法人本部機能と各事業所事務の明文化
 - ・多様な障害特性への対応と限界
 - ・メンバー高齢化に伴う対応と限界
 - ・中堅職員の退職

2019年度事業運営方針

- 日々改革による前例に捉われない自由な発想
 - ・管理職層の職務分掌の明確化によるボトムアップ環境の更なる整備
 - ・若手管理職の更なる経営への参画
- 増収施策の実施
 - ・年変形労働時間制の導入
 - ・年稼働269日を意識した年間プログラムの作成と実施
 - ・施設外就労の精査
- 職員の安心と安定
 - ・働き方改革の確実な実践
 - ・個々におけるキャリアパスの作成とスキル、階層別教育(パート含む)の継続
 - ・異業種間交流による人脈づくり
 - ・学卒職員確保のための具体的行動
- 将来を見据えた支援の実施
 - ・メンバーひとりひとりの将来の姿(就労・生活)を見据えた支援計画の実践
 - ・ご本人、保護者、地域の方々とのコミュニケーションの充実
 - ・内部監査の実施
- 新規事業(学校建設)に向けた準備
 - ・国庫補助申請(土地譲渡)
 - ・職員の確保

2019年度事業収支計画

◆収支計画(予算)

単位:千円

平成30年度予算(補正值)

2019年度予算

収入 384,810千円 福祉事業 280,920 就労事業 83,541 施設整備補助 6,602 取り崩し収入 5,000	収入 440,848千円 福祉事業 305,407 就労事業 83,402 助成事業 5,130 施設整備補助 6,602 取り崩し収入 33,000
支出 389,415千円 福祉事業 275,979 就労事業 83,541 施設整備等 27,670	支出 415,642千円 福祉事業281,192 就労事業83,037 助成事業6,175 施設整備等10,211 25周年事業1,500 取り崩し支出33,000
	収支差 25,206千円

収支差▲4,605千円

◆考察

- 2019年度計画は平成30年度予算と比較し、増収増益
- 新規利用契約7名(A型1名、B型1名、生介2名、生訓2名 未定1名)
- 福祉事業増収施策
- 新規事業準備と助成事業の実施
- 請求精査
- 職員のモチベーションを考慮した支出(処遇改善加算)

事業推進重点施策

◆経営部門

～人材確保、育成と定着～*最重点

- ・処遇改善(処遇改善加算の見える化)
- ・労働環境改善委員会(仮称)の立ち上げ
- ・常勤パート職以上の個々におけるキャリアパスの作成
- ・全職員向け研修、階層別研修の継続実施
- ・求人用パンフレット又は動画の作成

～福祉事業における収益確保～*最重点

- ・開所日数の増
- ・支援向上による通所日数と契約者の増

～具体的防災対策～

<A型事業>

- ・障害特性を考慮し、労働環境整備による業務選択肢を拡げる
- ・A型事業所が到達点か通過点かをきちんと識別した支援を行う

<施設外>

～施設外就労メンバーの増員と施設外就労先の検討～*最重点

- ・施設外先を固定観念でなく、柔軟な対応において、行き先を複数化する
- ・生活支援面でのモニタリングを充実する
- ・就労面・生活面バランスの取れた職員を育成する
- ・法人内就労系事業所が定期的に情報交換等を行い、新規受け入れメンバーの環境を整備する
- ・収支状況を常に意識、確認し、必要に応じ単価交渉等を行う

<施設内>

- ・作業量の安定確保(作業種目の見直しと新規開拓)
- ・メンバー主体の作業体制を構築する
- ・施設外就労へ繋げられるメンバーの養成(半日)
- ・製菓製パン、組紐は消費税10%を契機に商品改良と販売価格の見直しを図る

<就労定着>

- ・OB、OG会の更なる発展(本人向け、家族向け研修会や相談会)

<訓練>

- ・外部講師の積極的活用により座学を充実し、学校プログラムに反映する
- ・座学訓練科目の充実(量、質とも)
- ・支援尺度に基づいたグループ分け
- ・個別支援計画に基づいた個別訓練計画の作成と実施(移行・生活)
- ・就労アセスメントの実施(生活)
- ・施設外就労への計画的参加

<介護>

- ・介助・介護能力(特に身体)の向上
- ・年間計画に沿った個別創作環境の整備と実施
- ・小行事の企画と準備
- ・メンバー個々の能力の発掘
- ・予防等勉強会(口腔、感染、熱中症、肥満等)の実施
- ・法人内商品とのタイアップ等による創る、売れるを実感、喜びに繋げる
- ・プログラムのマンネリ化を防ぐ(外部講師、職員特技の積極的活用)

<サテライト型GH>

- ・必要に応じ検討

<相談>

- ・介護保険制度における知識の習得
- ・報酬単価減を補うための設備投資と業務改善
- ・特定相談事業所としての業務精査

<保健・ヘルパー>

- ・GH入居者に対する的確なニーズ把握と計画実行
- ・多岐に渡る診療科目での基礎的知識の習得

◆事業・投資計画

- ①法人設立25周年事業・・・1,500千円
 - ・ひまわりコンサートと式典の開催(2019年7月14日)
 - ・記念誌発行
- ②新規事業(学校建設)に向けた具体的行動・・・33,000千円
 - ・四十九町ミルボン様土地譲渡、基本設計
 - ・国庫補助申請
- ③施設外就労フォーラム(日本財団助成 三重県共催)・・・3,025千円